

大声でつぶやく けったいな町医者

作家・医学博士 長尾和宏



「徹子の部屋」を見ていたら南美季子さんが母親の認知症について

赤裸々に語っていた。「あなた、どちらさまですか」と言われたと。最後は胃ろうだったという。経過の早い認知症だったので遺伝性を心配されていた。そして認知症予防の一番は歩くことだと発言された。お母さまは全く歩かない人だったので骨粗しょう症にも悩まされていたと。南さんとは知り合いなので僕の歩行本も読んでくれていたのかなあと思った。お母さまが言われた「どちらさまですか」という言葉。実はこの歌を6月24日の卒業ライブでオリジナル曲で初めて歌った。曰

卒業ライブで認知症歌謡を歌う

本初の認知症歌謡。それも老人の僕が歌う。日本で初めて披露した。リハーサルはまあまあだった。認知症になったら人生もう終わり？ いや何も変わらないよ。僕がいるから。当目ステージに演出で上がるお母様役を丸ちゃんに依頼した。恋人役ではなくて申し訳ないのだが頼める人は丸ちゃんしかいない。僕もいつか予想外に長生きして9歳になったら「どちらさま」と言っのかな。「いや、あんた誰？」は早晩言っと思う。それでも心の中には優しさを上げよう。い言葉が残っていると。いう内容の歌。でも僕は必死のパッチで死ぬ気で歌った。一生に1回限りの大きなステージを楽しんだ。「認知症には歩行が一番」 混雑する地下鉄の車内で前の女性がそんなことが書かれた本を読んでいた。内容が僕の本と同じだったので奇遇なのかなあとサインの準備をした。しかし、表紙が見えたら、別の著者の別の本だった。要は完全にパクられてコピーされていたのだ。でも、それでいい。歩行啓発本なので広がればいい。歩いて免疫を上げよう。